

研究・調査報告書

報告書番号	担当
139	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption and n-3 polyunsaturated fatty acids in healthy men and women from 3 European populations. 健康な3ヨーロッパ人、男女でのアルコール消費と n-3 多価不飽和脂肪酸</p>	
執筆者	
<p>di Giuseppe R, de Lorgeril M, Salen P, Laporte F, Di Castelnuovo A, Krogh V, Siani A, Arnout J, Cappuccio FP, van Dongen M, Donati MB, de Gaetano G, Iacoviello L; European Collaborative Group of the IMMIDIET Project.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2009 Jan;89(1):354-62. Epub 2008 Dec 3.	
キーワード	
n3 多価不飽和脂肪酸、アルコール、ワイン、循環器予防効果	
要 旨	
<p>目的： 食事及び血中の n3 多価不飽和脂肪酸の高値は心筋梗塞、突然死に対して予防的であり、アルコールによる n3 多価不飽和脂肪酸の増加はアルコールの循環器予防効果のメカニズムであると考えられている。この研究ではアルコール消費が n3 多価不飽和脂肪酸の血漿及び赤血球膜中の濃度の関連を検討した</p> <p>方法： 年齢 26-65 歳でイタリア、ベルギー、イングランド在住の 1604 名(802 名の男女のペア)を対象した IMMIDIET (Dietary Habit Profile in European Communities with Different Risk of Myocardial Infarction: the Impact of Migration as a Model of Gene-Environment Interaction) 研究を用いて検討した。</p> <p>結果： 調整モデルで、アルコール消費は女性で血漿の EPA、DHA、両方の合計の濃度 (p<0.0001, 0.036, 0.004)、赤血球膜中の EPA と DHA のインデックス(P=0.003, 0.004)で有意に関連を認めた。男性では、血漿と赤血球膜中の EPA のみでアルコール摂取と有意な関連を認めた(p=0.003, 0.004)。ワイン飲酒者で血漿及び赤血球膜中の EPA(p=0.008, 0.002)、DHA(p=0.014, 0.008)、EPA+DHA インデックス(p=0.010, 0.006)と有意な関連を認めたがビールや蒸留酒の飲酒者では認めなかった。</p> <p>結論： アルコール飲酒は血漿や赤血球膜中の n3 多価不飽和脂肪酸の高濃度と関連した。アルコール以外のワインの成分(ポリフェノール)がこの効果に関連しているかもしれない。アルコールによる循環器予防効果は n3 多価不飽和脂肪酸の増加によって一部はもたらされているだろう。</p>	